

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅褥瘡チームにおける在宅訪問管理栄養士の役割について
演者名	塩野崎 淳子 ¹⁾ 熊谷 英子 ²⁾ 村田 幸生 ³⁾
所属	1) むらた日帰り外科手術・WOC クリニック在宅訪問管理栄養士 2) むらた日帰り外科手術・WOC クリニック皮膚・排泄認定看護師 3) むらた日帰り外科手術・WOC クリニック医師

【目的】当クリニックでは、平成 26 年 4 月より外科医・WOC ナース・在宅訪問管理栄養士がチームを組み、在宅及び障害者支援施設における褥瘡患者を訪問している。その中で管理栄養士として、いかにして在宅や施設における「包括的な食支援」ができるかを模索してきた。その 4 つの事例について報告する。

【実践内容】1. 在宅における 2 事例 (①90 代女性。認知症・糖尿病・低栄養状態。要介護 5。娘と二人暮らし。紹介時、右踵部褥瘡の創面は硬い黒色壊死組織に覆われていた。D5-e3s8iog5N6p0=22 点⇒11 点 (2014.10 現在) ②80 代女性。脳梗塞後遺症、慢性心不全。貧血・低栄養状態。要介護 5。息子と二人暮らし。紹介時、仙骨部と右坐骨部に褥瘡が発生し、いずれも黒色壊死組織に覆われ、感染兆候を認めた。仙骨部・右坐骨部ともに DU-E 6s6ilgoN6P9=28 点⇒仙骨部 50 日、右坐骨部は 60 日で治癒した。

2. 障害者支援施設における 2 事例 (①30 代女性。亜鉛欠乏あり。事故による脳挫傷後の脳性麻痺。D5-e3s6ilg3nopo=12⇒発表時報告②60 代男性。悪性関節リウマチにて左下肢切断。低栄養状態。D5-e3s6i0g3N3p9=24⇒発表時報告)

【実践効果】チームによる褥瘡ケアが開始されてから、すべての事例において改善・治癒が見られた。ショートステイ先や施設の管理栄養士と直接情報交換し、食欲不振時の対応などを共有することにより、シームレスな栄養支援を行うことができた。

【考察】在宅褥瘡チームにおける管理栄養士の役割とは、褥瘡治癒のために不足している栄養素を明らかにし、栄養状態の改善のための具体策を提案することであると考える。また、在宅は生活の場であることから、ケアマネジャー・介護員との連携はもちろん、管理栄養士間の横の連携も強化し、包括的に食生活を支援できるような体制を目指していきたい。